

●車

東京	▶ 練馬 IC	約6時間 30分	金沢森本IC
名古屋	▶ 名古屋一宮 JCT	約2時間 50分	金沢森本IC
大阪	▶ 吹田 IC	約4時間	金沢西IC

●飛行機 東京 ▶ 羽田空港 → 小松空港 → 金沢駅
約1時間 特急バスで約40分
羽田空港 → のと里山空港 → 金沢駅
約1時間 特急バスで約2時間

●JR

東京	▶ 東京駅		金沢駅
		2時間25分(最速列車「かがやき」)	
		北陸新幹線(長野経由)	
名古屋	▶ 名古屋駅		金沢駅
		約3時間(特急しんがさぎ)	
大阪	▶ 大阪駅		金沢駅
		約2時間30分(特急サンダーバード)	

This map illustrates the Shikoku region and its connections to other parts of Japan. Key features include:

- Cities:** Major cities like Osaka, Kyoto, Tokyo, Hiroshima, and Fukuoka are marked with red dots. Other cities shown include Nara, Sendai, and Sapporo.
- Airports:** Kansai International Airport (KIX) and Narita International Airport (NRT) are highlighted with blue circles.
- Transportation Routes:**
 - Train Lines:** Shinkansen lines (red), JR lines (blue), and private rail lines (green) are shown.
 - Highways:** Major highways like the Toei Expressway (orange) and the Shuto Expressway (yellow) are depicted.
 - Other Routes:** Ferry routes (blue) and bus lines (green) are also indicated.
- Geographical Features:** The map shows the coastline of Japan, including the Sea of Japan, the Inland Sea, and the Pacific Ocean.

2023 年 4 月施設情報更新
施設情報については、変更になる場合があります。

— 今に息づく伝統の美と技 —

金沢の伝統工芸



金沢の伝統工芸とその歴史

日本では、昔から代々築いてきた文化や風習などの伝統を受け継ぎ、その中で使われるものを大切に、次の世代に伝えるということが行われてきました。日本の中でも金沢は、伝統を受け継ぐ土台が整っていたことから、特に優れた技術が集まった場所として、多くの伝統工芸を見ることができます。その理由のひとつは、1583年より金沢を治めた加賀藩前田家が、武士や庶民に能楽や茶道などを奨励したことにあります。

その際に使われる衣装や茶器、小物類などの伝統工芸品や調度品、美術品も前田家の助成により盛んに作られてきました。

時代が変わった今でも能楽や茶道などの芸能文化が受け継がれ、伝統工芸品はより身近に人々の暮らしの中に溶けこみました。優れた工芸品はどの時代も凛とした美しさを放ち、暮らしを華やかに彩り、そして豊かにしてくれます。

写真提供：金沢市

金沢の伝統工芸を 見て学ぶ

金沢市立中村記念美術館



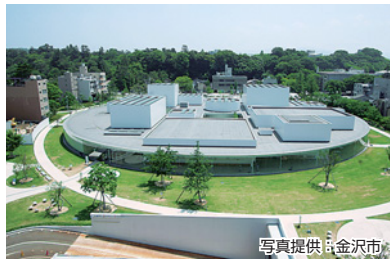
写真提供: 金沢市

金沢市の旧家・中村家の代々当主が集めた古九谷の茶碗や加賀蒔絵のなつめ、江戸時代の絵画や掛軸、屏風など、茶道具に関する古美術品を中心に展示しています。抹茶と

お菓子を味わうこともできます(有料)。

DATA 住所／金沢市本多町3-2-29 電話／076-221-0751 開館時間／9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館日／毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間、年末年始(12/29～1/3) 観覧料金／一般310円、65歳以上210円(祝日は無料)、高校生以下無料

金沢21世紀美術館



写真提供: 金沢市

地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館として、工芸をはじめとする文化が、21世紀にどのような可能性を持つのか、異文化交流の視点に立って問いかけます。

現代アートを中心に、国内外の作家を紹介する展覧会ゾーンのほか、恒久展示作品がある無料の交流ゾーンが充実しています。

DATA 住所／金沢市広坂1-2-1 電話／076-220-2800 開館時間・休館日・観覧料金／【交流ゾーン】9:00～22:00、年末年始休、入館無料。【展覧会ゾーン】10:00～18:00(金・土曜は20:00まで)、月曜(休日の場合は翌平日)休、年末年始休、入場有料(展覧会観覧券)

C O N T E N T S

1 伝統工芸とその歴史

5 加賀友禅

9 金沢九谷

13 金箔

17 金沢漆器

21 金沢仏壇

25 加賀繻

29 大樋焼

30 加賀象嵌

31 銅鑼

32 茶の湯釜

33 桐工芸

34 加賀水引細工

35 加賀毛針

36 二俣和紙

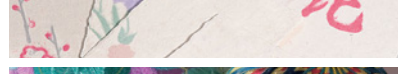
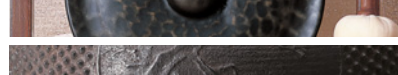
37 加賀手まり

38 伝統工芸体験コーナー

42 ショップガイド

45 マップ

3 伝統工芸を見て学ぶ





加 賀 友 禪

加賀友禪とその歴史

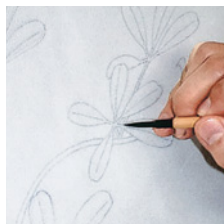
日本の民俗衣装のひとつである着物。着用は結婚式や祭り、イベント時だけでなく、茶の湯や能、踊りといった稽古事が盛んな金沢では、普段でも着物を着ている方を多く見かけます。着物は時と場所に合わせてさまざまな種類があり、加賀友禪はお出かけ着として、結婚式やパーティなど格式の高い場所で着用します。その歴史は古く、今から約550年前にあった「梅染」^{うめぞめ}が起源といわれます。

加賀友禪はその後、琳派の尾形光琳(おがた こうりん)の画風を学び、扇絵の作画を得意とする絵師・宮崎友禪斎(みやざきゆうぜんさい)が、京都から金沢に移り住んだことがきっかけといわれます。友禪斎は染色を行ってはいませんが、友禪斎の意匠原案をもとに加賀友禪が描かれ、現在の優美な絵柄が発達したといわれています。京友禪の図案化された文様と異なり、加賀友禪は写実的な絵画が特徴です。四季に移ろう花鳥風月が主なモチーフであり、ぼかし技法などで自然美を巧みに鮮やかに描いています。たとえば、虫喰いの葉っぱまでもリアルに表現していることです。色彩も非常に豊かで、藍、胭脂、黄土、草、古代紫の加賀五彩と呼ばれる色を基調としています。

最近では着物だけでなく、飾り扇や加賀友禪の反物を利用した財布やタペストリーなど雑貨も多く作られており、若い女性からの支持を受けています。



加賀友禅の工程



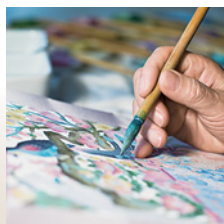
1 下絵

●したえ
図案の紙を仮に縫い上げた白生地の下に敷きます。青花（ツクサの花の汁）を筆につけて薄く写っている図案をなぞります。この青花は水洗いすると消えてしまいます。



2 糊置き・地入れ

●のりおき・じいれ
染め上がりの仕事のきれいさが求められる、緻密で地味な作業です。下絵の線に沿って糊を置いていくのですが、この部分のみ白い線として残るため、繊細さが必要です。



3 彩色

●さいしき
糊置きされた中に、筆や小刷毛を使い分けて色を入れていく工程です。微妙な濃淡で草花のみずみずしさを表す表現力や手先の器用さに加え、色彩感覚やセンスが問われます。



4 地染め

●じぞめ
白生地に彩色を施しているのので、ここでは生地全体の地染めを行います。彩色の部分に色が入りこまないように糊で埋めてから行います。作家が希望した色を刷毛でムラなく一気に染め上げていきます。



5 水洗い

●みずあらい
地染めしたあと、色が安定するように 100℃近い蒸し箱で 30～90 分、蒸します。そのあと、染料以外の糊などを洗い落とす作業をします。昔は川で行っていましたが、今は井戸水をくみ上げての人工川で行っています。

伝統の加賀友禅



きむら うざん
木村 雨山 作
ゆづせんがちょうもんふりぞで
「友禅花鳥文振袖」
所蔵：金沢市立中村記念美術館
1955年に人間国宝に認定された加賀友禅の名工・故 木村雨山氏の振袖。独自の技法を駆使して、濃淡の色調を巧みに表現しています。

現代の加賀友禅



まいだ けんじ
毎田 健治 作
まつかわとりうめこうし
訪問着「松皮取り梅格子」
協同組合加賀染振興協会
P42
四季の花々が贅沢に、また写實的にいきいきと描かれている訪問着です。



やだ ひでき
矢田 秀樹 作
ぼいりん
黒留袖「兼六園・梅林」
協同組合加賀染振興協会
P42
名勝兼六園の冬の風物詩、雪吊りを表現した金沢情緒あふれる黒留袖です。

金 沢 九 谷



かたおかこうざん
初代片岡光山 作
びじんがはなづめ
「美人画花詰」
片岡光山堂 P42
欧米のコレクターに
好まれた美人画。



鎚木製
きんもりぶどうもん
「金盛葡萄紋ワイングラス」
九谷焼 鎚木商舗 P42
九谷焼の伝統的な技法である「青粒」の第一人者・
故 仲田錦玉（なかた きんぎょく）氏が上絵を手掛けた
ワイングラス。

金沢九谷とその歴史

石川県加賀地方には、今からおよそ350年前に焼物・古九谷と呼ばれる焼物がありましたが、50年ほどで廃窯となっていました。加賀藩はその再興を試みようと、1806年に京都の名工・青木木米（あおき もくべい）を招いて金沢に窯を開きました。これが、金沢九谷の始まりです。青木木米は古九谷に使われていた土と金沢の土を調合して成形。緑・黄・赤・紫・紺青のカラフルな五彩を用いて中国風の花鳥を描いたり、全面に金を施したりと、豪華絢爛な新しい九谷焼を造り上げました。以降、加賀藩の援助により金沢九谷文化が広がっていききました。日本が鎖国を解き開国したあとは、国内外の博覧会に積

極的に出品。この九谷焼の派手さや豪華で華麗なイメージが海外で人気を博し、「ジャパנקタニ」の名前で輸出されるようになりました。

そして今日まで、赤絵金彩、金襴手、花詰などの木米の作風と伝統を源流に、斬新な手法も加えながら多くの作家がさまざまな金沢九谷を生み出してきました。近年、日本の暮らしが洋風化されてきたように、金沢九谷も座敷や畳ではなく洋風のダイニングに合わせた食器を登場させています。九谷焼ワイングラスを代表に、使い手を意識した形や色、文様、用途など、新しい息吹が吹き込まれています。

金沢九谷の工程



1 成形

●せいけい
焼物に適した陶石を採取し粉碎。不純物を取り除き土もみをし、陶土内の空気を抜きます。そのあとに成形です。円形の場合は主にロクロ成形で、台に土置いて回しながら成形します。石膏で型を作り泥状にした土を流し込む鑄込（いこみ）成形や、紐状にしたものを積み上げていく手びねりなどがあります。



2 素焼

●すやき
原料の土を乾燥させることにより、強度が高まります。また、土の中の含まれる可燃物を燃やすことも目的としています。徐々に温度を上げて焼き割れを防ぎます。約800℃で8時間ほど焼き上げたものを素地（すじ）と呼びます。



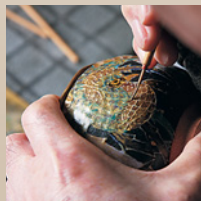
3 下絵付

●したえつけ
素焼した素地に、「染付呉須（そめつけぐす）」と呼ばれる、主成分が酸化コバルトの液を使い、下絵を描きます。一般的には染付と呼ばれるもので、焼成後には紺色になります。このあと、素焼きの表面に釉薬をかけて、本窯で焼きます。焼成後は、この釉薬が透明のガラス質となって陶器の表面を覆い、美しい艶がでます。

4 上絵付



いろえ
色絵



きんもり
金盛り



あかえさいびょう
赤絵細描

下絵付工程の呉須の下描きの上に、焼くと発色する絵具を筆や刷毛でのせるようにして描いていきます。絵具が乾燥したら800℃～1,000℃の上絵窯で焼成します。未発色だった絵具が溶けてガラス質の華やかな五彩の色が浮かあがってきます。

伝統の金沢九谷



しみず すいとう
清水 翠東 作
きんからくさきくろ
「金唐草 玉露 揃え」

片岡光山堂 P42
金沢九谷の名工・故 清水翠東氏の作品。金をふんだんに使った茶器揃えは精緻な唐草紋様が凛とした風格を添えています。氏は優れた写生力をもち、花鳥風月や山水、人物画などの多くの作品を残しています。



しみず びざん
清水 美山 作
かきくそのこもんて
「垣菊園小紋手」

九谷焼 諸江屋 P42
オーソドックスな花瓶に緻密な金彩を施し、リアルな菊の紋様を見事に描き出しています。

現代の金沢九谷



おか しげとし
岡 重利 作
せいじ
「青瓷 五角鉢」

北山堂 P42
透明釉薬にごく微量の鉄を加え、高温で焼き上げた青瓷。しなやかな美しさと独特の温かみをもった作品です。



おおかねまさ かすい
大兼政 花翠 作
こもん
「小紋に野の花 酒器」

九谷焼 錦木商舗 P42
九谷五彩の伝統を踏まえながら野の花を描いた新鮮な感覚の酒器。

よしだ しょうざん まえだ まち こ
吉田 勝山×前田 真知子 作
しらさぎもん
「白鷺紋ネックレス」

九谷焼 諸江屋 P42
金沢九谷の名工・吉田勝山氏と新進気鋭の金工作家前田真知子氏とのコラボレーションで生まれた作品です。



金 沢 箔



写真提供：箔一本店 箔巧館

金沢箔とその歴史

金 沢では、およそ400年ほど前から金箔が製造されていたと考えられています。1696年には、江戸（東京）、京都以外で金箔の製造が禁止されますが、加賀藩では密かに製造を続けていたようです。1864年に金箔の製造の禁止令が解かれ、表だって金箔を製造できることになり、質・量ともに大きく発展していきました。武士の時代が終わったあと、それまで世に知られていた江戸箔に代わり、品質のよい金沢箔が市場に広くでまわるようになり、現在では国内シェア99%を占めています。

金沢箔の品質のよさは、職人技術の高さに加え、金箔製造に合う雨や雪が多い気候が一つの要因と考えられ、わずか

1万分の1ミリの厚さにまで延ばすカギともなります。箔打ちは、和紙の間に一枚一枚挟み込んで束ね、機械で叩き延ばしていきます。この和紙もまた金沢の特産であり伝統工芸として受け継がれているものです。和紙をアク（灰汁・柿渋・卵）に浸す、叩く、乾かすを繰り返すことで表面に薄い膜ができ、挟む金箔にやわらかな光沢やハリ、なめらかさが生まれてくるといいます。

金沢箔の工程



1 延金

銀と銅を微量にまぜた金合金を何度もロール圧延機にかけて帯状にのばします。この時点で100分の5～6ミリの厚さになります。



2 引き入れ

延金からこの引き入れまでは、「紙仕込」「澄打ち」「仕立て」「紙仕込」と和紙に挟んで機械で打つ作業を繰り返します。引き入れは、1,000分の3ミリになった箔を1万分の1～2ミリにするために、打ち紙の間にに入れる作業です。



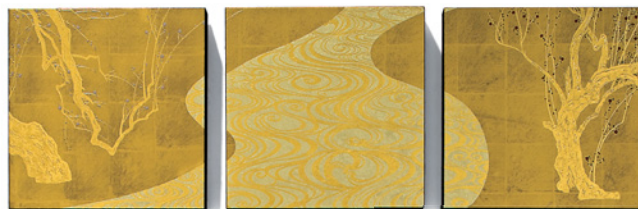
3 打ち前

引き入れのあと打ち前と呼ばれる工程があります。1分間700回も打つ機械にかけます。打ちあがった小間（金箔）を主紙に移し替えることを渡し仕事と呼んでいます。移したあとさらに打ち上げます。



4 箔移し

金箔を製造する最後の工程となります。打ちあがった金箔を、箔専用の切断器、竹枠で一定の大きさに切りそろえていきます。切り終えた金箔は手渡しと紙に挟みこみます。



箔画コレクション 「八寸パネル（光琳紅白梅図写）」 三連セット

箔一本店 箔巧館 P43
およそ300年前に活躍した絵師・尾形光琳の国宝「紅白梅図屏風」をモチーフに、箔で丁寧に描いたものです。



「レザーバッグ箱型・墨」

箔座ひかり蔵 P43
レザー素材を使用。箔座オリジナルの純金プラチナ箔でドットをデザインしたシンプルなバッグです。



「箔ガラス丸皿」

今井金箔 P43
一枚一枚微妙に違う箔の表情が堪能できるガラス皿。切り取った箔のカタチや配置など、手仕事でしか表現できない温かみを感じられます。



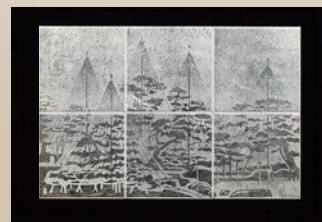
「iPad ケース」

金箔箔工芸さく・本店 P43
勢いのある図柄を大胆に箔で表現した iPad 用のキャリングケース。デニムのヴィンテージ感やコーナーの丸みなどディテールにこだわった作品です。



「蒔絵屏風 牡丹」

金箔工芸田じま P43
黄金の屏風に優雅な牡丹の花を蒔絵で表現したあでやかな作品。コンパクトなサイズでリビングやエントランスに最適です。



「銀箔アート箔 額装「冬の兼六園」

金箔貼り体験 かなざわカタニ P43
薄い純銀箔の上に絵柄を浮き出させる技術を開発し「アート箔」として特許を取得しているかなざわカタニの作品です。

金 沢 漆 器



金沢漆器とその歴史

金 沢漆器の歴史は、1630年頃に3代加賀藩主前田利常が美術工芸の振興に力を入れたことに始まります。京都の東山・桃山文化を代表する足利將軍家御用蒔絵師・五十嵐道甫(いがらし どうほ)が指導者として加賀藩に招かれ、その後、印籠蒔絵の名工・椎原市太夫(しいはら いちだゆう)が江戸(東京)から招かれ、京都の優美な貴族文化と江戸の力強い武家文化とが融合して、金沢漆器の基礎が築かれていったようです。

金沢漆器は、室内調度品や茶道具などの一品制作が中心です。

制作工程は大きく分けて「木地」「下地・布着せ」「塗り・研ぎ」「加飾(蒔絵)」の4段階。丈夫さをだすための工夫が

随所になされています。

細分化された工程の最終である加飾が、金沢漆器の特徴をもっとも表しているといえます。漆器の産地は全国にありますが、これほどに高度な技術を用いて繊細で華麗な加飾を施すものは少なく、漆で描き金銀を盛り(蒔き)付ける加賀蒔絵と呼ばれる装飾は美術品としての価値も高いといえます。

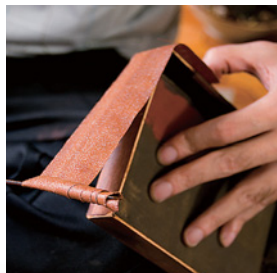
「わびさび」とよばれる日本独特の美意識を極めながら丁寧に作られる金沢漆器は、高級感あふれる工芸品です。使うたびに独特の艶が生まれ、使う人になじんでくるから不思議です。

金沢漆器の工程



1 木地

原木を製品の大きさに合わせて切り取り、「指物（さしもの）」「曲げ」「削り（くり）」「挽き（ひき）」などの手法を使い、製品の形状を整えていく工程です。この工程は木地師と呼ばれる職人が担当し、正確な寸法と歪みのない木地に仕上げていきます。



2 下地・布着せ

漆器の強さや塗りの美しさを高めるための工程です。木地の接合部や傷を生漆などを塗って埋め、また実際に使用した際に傷つきやすい部分に、あらかじめ布や和紙を貼って補強する「布着せ」という作業も行われます。



3 塗り・研ぎ

漆塗りをします。塗っては研いで平らにし、その上に密着させるように塗り、そしてまた研ぐ。この作業を何度も繰り返します。漆は乾燥させてから研ぎの工程に進みますが、この乾燥の度合いの見極めが難しく、職人の技術が問われる部分です。



4 加飾（蒔絵）

蒔絵は、漆を含ませた筆で絵を描き、そこに金や銀粉を蒔きつけ、さらに漆をかけて研いでいきます。この加賀蒔絵の技法のほか、貝殻を使う螺鈿（らでん）、卵の殻を使う卵殻（らんかく）などの加飾技法があります。

伝統の金沢漆器



二代 清瀬 一光 作

「雪月花 料紙箱・硯箱」

豪華絢爛でありながら瀟洒（しょうしゃ）で繊細。五十嵐道雨の時代から受け継いだ伝来の図案を施した加賀蒔絵の料紙箱と硯箱。一対の作品です。



横山 一榮 作

「朱 糸菊蒔絵 長手小箱」

能作 P42
青貝を使った螺鈿をポイントに、女性らしい繊細でモダンな糸菊がデザイン化されています。

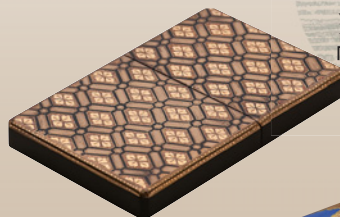


福島 一恵 作

「夕顔 中次」

金沢漆器商工業協同組合 P42
黒漆に金や螺鈿を用い蒔絵を施した秀作。自然美が見事に表現されています。

現代の金沢漆器



清瀬 明人 作

「蜀江蒔絵カードケース」

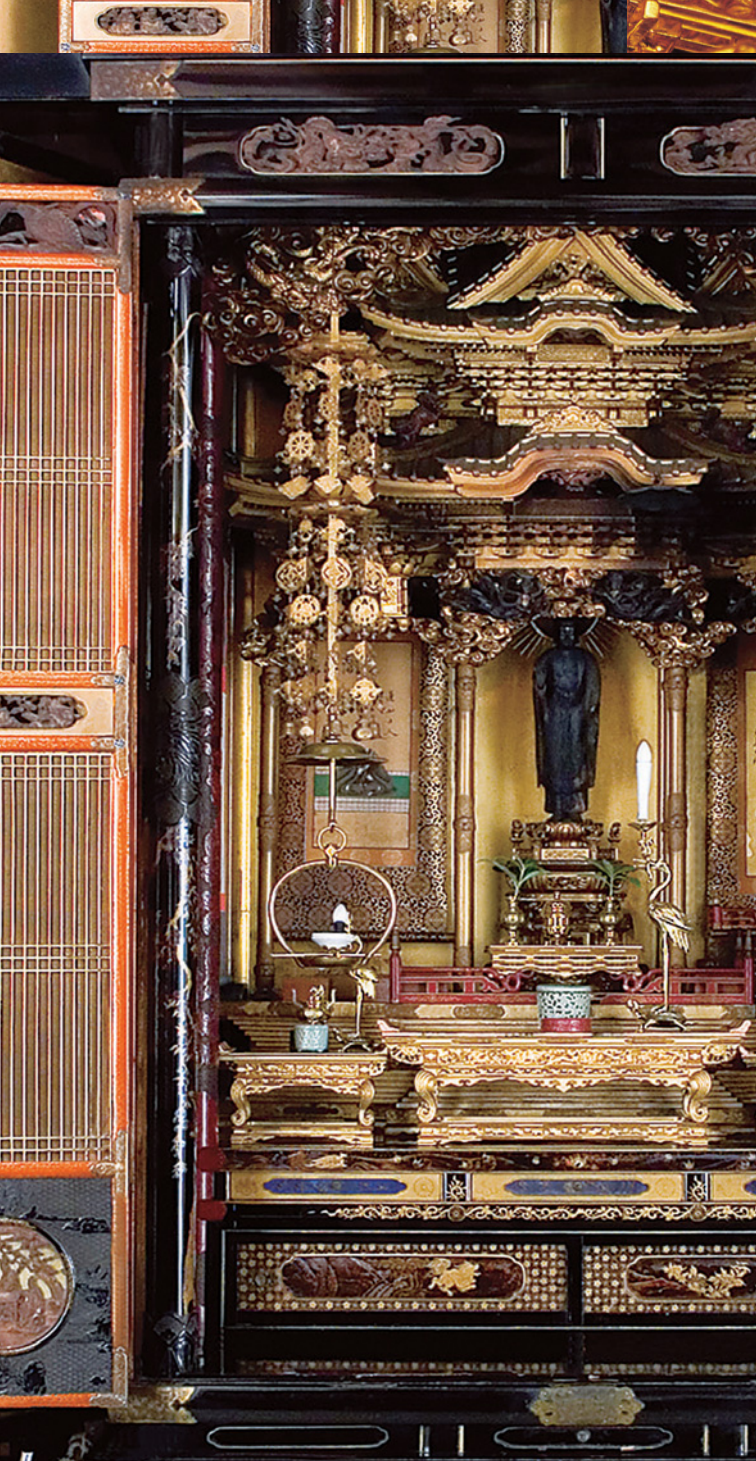
金沢漆器商工業協同組合 P42
伝統文様である蜀江文様を、加賀蒔絵であしらった豪華なカードケース。



田村 一舟 作

「奥美小紋／綾乃三 蒔絵万年筆」

精密な蒔絵を施した万年筆。ロケットの部材にもなるスーパーエンジニアリングプラスチックを使用しており、200～300年の耐用年数があるといわれます。



金 沢 仏 壇

金沢仏壇とその歴史

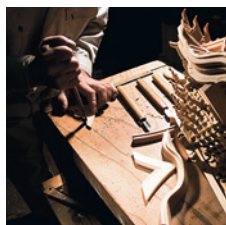
1 471年ごろから、蓮如上人(仏教の僧侶)が石川県で布教活動をはじめ、その教えが広がってきました。各地区に信仰の寄りあいの場となる道場が設けられ、仏壇が必要となり、その後も布教が続き、庶民の家々にも仏壇を置くようになってきました。加賀藩の時代に入り(1583～1868年)、3代藩主前田利常が京都や江戸から職人を呼び寄せ基礎をつくり、5代藩主前田綱紀が美術工芸品を制作する「加賀御細工所」の整備をしたといわれています。そのため、多くの職人が住みつき、仏壇を制作する木地師、塗師、蒔絵師、彫刻師、金具師などの七職が揃い、完全分業体制で仏壇制作を行っていました。

金沢仏壇の大きな特徴は、加賀蒔絵の技術を生かした上品な絵柄の美しさに変色しない塗りの丈夫さにあります。また、耐久性のあるイチヨウやアオモリヒバなどの木材を使う本体木地部分は、釘をいっさい使わないホゾ組みの構造で堅牢な仕上がりを重視。金箔の加飾を随所に施した豪華な仏壇は美術工芸品としての風格を備えています。

一方で、近年マンション住まいや和室のない世帯などの生活様式の変化を受けて、小型化、シンプル化の仏壇も登場。金沢仏壇では、伝統の技を絶やさないように継承のあり方を模索しています。

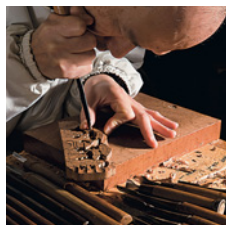
金沢仏壇の七職

仏壇は7つの工程それぞれに仕上げていき、最後に組み合わせます。



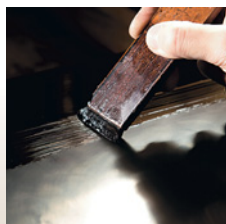
1 木地 2 宮殿

木地とはイチヨウやクサマキ等を使い仏壇本体を制作する大事な基本作業の事です。宮殿とは仏壇内部にある屋根の部分の事です。よく乾燥させた木材を使い、1,000個以上の細かな部品をノミや小刀で一つ一つ作ります。なかでも300～400の小さな部品を合わせるマス組と呼ばれる作業は緻密です。



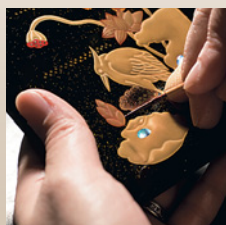
3 木地彫り 4 箔彫り

木地彫りは、イチイやタブ、ツゲなどの堅い原木を使い、箔彫りはベニマツ、ホオノキなど柔らかい原木を使います。どちらの彫りも用途によって所定の大きさに切断し、下描きをします。荒彫りをしたあと、いくつもの彫刻刀を使い分け細部を仕上げていきます。長年の経験がものをいう工程です。



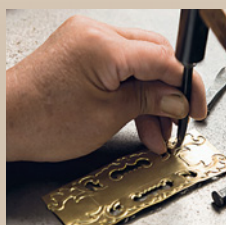
5 塗り

木地、宮殿、箔彫の完成品に塗りを施します。漆と土を混ぜた錆下地(さびしたじ)を数回塗り、強度を加えます。凹凸をなくすために地研ぎをし、漆を刷毛で塗ります。漆は湿度で乾く為蒸し風呂に入れて乾燥させ、乾いたら漆が均等な厚みになるように上塗をします。



6 蒔絵

上塗を終えたそれぞれのパーツに、金沢仏壇の特色となる蒔絵の技法で豪華な模様を付けます。接着剤の役目をする漆で絵や文様を描き、金や銀の粉をからませていく蒔絵には、背景の山や川を描く「研ぎ出し蒔絵」、立体感を出す「錆上げ」、「高蒔絵」などの技法があります。



7 金具

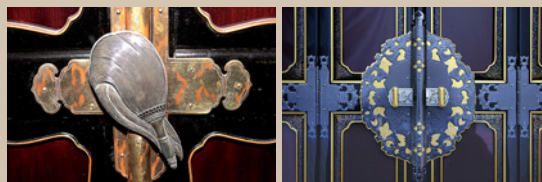
仏壇をさらびやかに演出する金具の装飾品を制作します。銅板や真ちゅう板の上に型紙のをせ輪郭線を描きます。材料を打ち切る刃物・切りたがねで形を切り、模様たがねで模様を入れます。最後に磨いたあとめっき加工をして完成です。



新デザイン二号
金沢仏壇商工業協同組合
P43
朱漆塗りと黒漆塗りの
コントラストが大変美
しく、シンプルなデザ
インながらも金沢仏壇
七職の伝統技術を用い
格調高く作られた現代
仏壇です。銀ロウ付
けパイプ蝶番を使用し
堅牢性を高めています。



漆は中塗り、上塗りのあと、呂色研ぎと、何度も塗りを繰り返すことによって強度も生まれます。鮮やかな蒔絵と、金・銀・すずの豪華な仕上げが伝統の重厚さを生み出し、美しい装飾はまさにアートのようなものです。



仏壇制作の七職のうち金具腕の腕のみせどころとなる扉の取手。銅合板をタガネやヤスリを使い、伝統的な手打ち技法で仕上げています。



加 賀 繡

加賀繡とその歴史

絹の反物に施された華麗で繊細な文様。しなやかな美しさを放つ加賀繡は、仏教の布教とともに打敷など仏具の加飾として京都より伝えられたのが始まりとされています。

その後金沢では、藩主の陣羽織をはじめ、奥方や姫君などの着物にも施されるようになり、加賀藩の庇護もあって「加賀繡」として発展をとげました。着物の襟に付ける半襟に刺繡を入れたものがおしゃれとして大流行した100年ほど前からは、加賀繡の需要が一気に増え、戦後は外国人向けのハンカチ装飾として生産されていました。

加賀繡の特色は、金銀をはじめ多彩な色合いの色糸を使い、刺し繡や肉入れ繡といわれる、ぼかしや立体感のある表現技法にあります。その技術習得は、1針1針刺して長い経験を積んで覚えるしかないということです。草稿・裏ずり、配色・糸縫り、台張り・繡加工とすべて手作業で行われています。

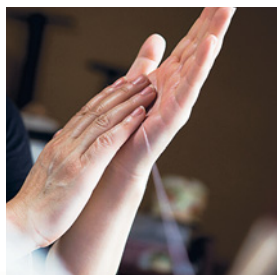
時代は移り、近年では刺繡を施したドレスやストール、アクセサリーやインテリアなど、加賀繡の魅力を身近に感じてもらうための小物を提案しています。

加賀繻の工程



1 草稿・裏ずり

●そうこう・うらずり
草稿とは和紙に鉛筆や墨を使い、元となるデザイン(下絵)を描く事です。裏ずりとは、下絵が描かれた和紙の裏に胡粉を水で溶いたものを塗り、布生地の上にのせ鉄筆でなぞり布生地にデザインを写す作業の事です。



2 配色・糸縫り

●はいしよく・いとより
布生地の色、図柄などに合う配色を検討するため、布生地の上に糸を置いて選んでいきます。希望した色がない場合は、新たに染める事もあります。糸縫りは、数本の糸を両手の掌を使って縫り合わせます。こうする事で、艶やかさと強度が増します。



3 台張・繻い加工

●だいはり・ぬいかこう
刺繻台に布生地をセットし、下絵に沿って15の伝統的な技法を使いながら刺繻を施していきます。布生地の表から裏、裏から表へと針の動きを確認しながら、ふっくらとした立体的な模様を作り上げていきます。



しろもんじゅすいせん
「白紋繻子地水仙」
とうかまるもんもようぬいこそで
唐花丸紋模様繻小袖」
所蔵・写真提供:金沢市

1601年、江戸幕府2代將軍徳川秀忠の2女・珠姫が、3代加賀藩主前田利常の妻として興入れする際に携えてきた「白繻子地水仙唐花丸形模様繻小袖」の復元品です。



ながはら くみこ
長原 久美子 作

「想いの小箱」

繻の彩り P43
桐の小箱に四季の花を刺繻で彩り、想いがこもった大切な品物やプレゼント等を収納します。



かわはら えり
川原 恵理 作
ひだりうま だいがく
「左馬 大額」

加賀繻 くらしこ P43
左馬は「左うちわ」「右に出るものなし」に通じ商売繁盛、交通安全等、幸運を招く御守りとして親しまれています。平糸で平繻をして切り押さえをし、金糸をかけた駒繻で縁をとって、格調高く仕上げてあります。

みやこし ひとみ
宮越 仁美 作
こふくさ うろこもん
古帛紗「鱗文」(左)
はくろ
「白露」(右)

宮越仁美 縫工房 P43
お茶道具の取り合わせに創作心をめぐらせながら制作した古帛紗。
四季を感じる色合いと刺繻の伝統技法を生かしました。



あなだ せつよ
穴田 節代 作

「貝合わせ お雛様」

加賀繻工房 椿 P43
蛸の対を探し、合わせる遊びである貝合わせ。良縁や夫婦の幸せを願う縁起物として親しまれています。特に大きな蛸の貝殻をお雛様の手刺繻を施した絹地で包んでいます。



大 樋 焼

大樋焼とその歴史

今からおよそ350年前、茶道の普及のため5代加賀藩主前田綱紀により京都から裏千家の千仙叟宗室(せん のせんそう そうしつ) が招かれ、その際に京都の楽焼(楽家4代・一入) の高弟であった大樋長左衛門(おおひ ちょうぞえもん) を伴い、金沢に移り住んだのが始まりです。以来、十一代にわたり金沢独特の作風を生み出し、抹茶碗や水指、菓子器 など茶道具をつくってきました。大きな特徴は大樋焼ならではの飴色に光る飴釉(あめゆう) の色と質感です。陶器のやさしい温かさを持っており口あたりがやわらかです。平成23年には、十代 大樋長左衛門(おおひ ちょうぞえもん) 氏が文化勲章を受章しています。

「大樋飴釉茶盃」

うらせんけ ほうりんさいだいそうしやうまわすもん(初)
裏千家鵬雲斎大宗匠様渦紋彫
じゅうはちだい まえだとしやうさきまうめばちもん(表)
18代前田利祐様梅鉢紋彫
とうだい おおひちょうぞえもん がさく
十代大樋長左衛門 合作
所蔵:大樋長左衛門窯・大樋美術館
P44



茶器「初代大樋飴釉茶盃 澁柿」

所蔵:大樋長左衛門窯・大樋美術館
P44

加 賀 象 嵌



なかがわ まもる
中川 衛 作
おぼろぎん
「象嵌臙銀
花器 窓明」

静寂な空間に差し込むやわらかな窓明り。癒しの心象風景をモダンに表現した作品です。

はせがわ まき
長谷川 真希 作

「加賀象嵌ペンダント」

金沢・クラフト広坂 P44
刀や馬具に用いられてきた象嵌の技術や意匠を受け継いだアクセサリー。さりげないお洒落が楽しめます。



加 賀 象 嵌 と その 歴 史

象嵌は、地金に紋様を彫り込み、底部を広げておき、異なる金属をはめ込む技法のことです。加賀象嵌は、1600年代に京都から加賀藩に招いた職人が伝え、受け継がれたものです。主に装剣具や乗馬の際使用するあぶみなどに施しており、はめ込んだ紋金を平らに仕上げる平象嵌が特色で、どんな衝撃にもはがれない強さと品格のある意匠が見事です。現代では花器や香炉、アクセサリーなどにその伝統が生かされています。

平成16年に中川衛(なかがわ まもる)氏が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。

銅

鑼



さんだいうおずみ いらく
三代 魚住 為楽 作
さはりしら
「砂張銅鑼」

祖父である初代・魚住為楽氏に師事した
三代為楽氏の銅鑼。

銅鑼とその歴史

茶 席の準備が整ったことを知らせる合図として銅鑼を鳴らします。銅鑼は古代ジャワなど南方民族の打楽器であり、中国を経て渡来したものとされます。日本では出船や茶の湯などの合図として利用されてきました。

銅と錫の合金を用いて鑄造し、漆で仕上げる銅鑼作りは、高度な鍛造技術と優れた音感が求められます。平成14年に三代 魚住為楽(うおずみ いらく)氏が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。

茶

の

湯

釜

茶の湯釜とその歴史

茶 道の湯を沸かすポットの役目をする茶の湯釜。1583年、初代加賀藩主前田利家が能登の鑄物師・宮崎彦九郎義綱を金沢に呼び寄せ、その子・義一は京都より招かれた千仙叟宗室の指導により、鑄造技術を生かして藩の御用釜師となり、名品を生み出しました。その後、寒雉菴号(かんち あんごう)を授けられ加賀茶の湯釜の創始者となり、現十四代目が伝統の技術を守っています。原料に和鉄(昔の鍋や釜のつぶしたもの)を使っています。



じゅうよんだい みやざき かんち
十四代 宮崎 寒雉 作

あられしんなりがま
茶の湯釜「靱真形釜」

金沢・クラフト広坂 P44
地肌(じみ)に靱模様(きりよう)を入れ、松と梅をあしらった伝統的な真形釜。

桐 工 芸



「桐タンス ニツ引」

加賀蒔絵を施した小物タンスは、大切なものをそっとしまっておくのに便利。

「ちょこっとトレイ」

金沢桐工芸 岩本清商店 P44
ちょっとしたおもてなしに、ついお茶を出したくなるかわいい創作トレイ。蒔絵は木地面から盛り上げて加飾しています。



桐工芸とその歴史

1 890年ごろ、桐火鉢(火を付けた炭を入れて暖をとる道具)に加賀蒔絵の装飾を施したことから、木目の美しさに雅やかさが加わり、全国に広まりました。最近ではこの技術と耐火性、耐湿性に優れた性質とを応用し、花器や皿、小引出しなどが制作されています。木のぬくもりが伝わる作品は暮らしの中に溶けこんでいきます。

加 賀 水 引 細 工

加賀水引細工とその歴史

水引は贈り物や封筒の飾りとして使われる飾り紙紐のことです。金沢ではこの水引そのものは生産されていませんが、水引を応用した水引細工が行われています。加賀水引の特徴は、立体的な水引細工・折型です。それまで平面だった水引を、初代津田左右吉(つだ そうきち)氏が独自に創案し、鶴や亀、松竹梅などを華やかでリアルな水引へと変えました。結納品や祝儀袋をはじめ、干支などの置物、ストラップなどもあります。



「祝儀袋」

金封にきりつと結ばれた華麗な水引細工でおめでたい慶びを表します。

「ぼち袋」

シンプルな結びのぼち袋は、ちょっとしたお礼やお年玉をいれるものとしてに最適です。



「結納飾り」

婚約式に男性側から女性側へ結納金や婚約指輪のほか、縁起物などが贈られます。感謝の気持ちを込めて美しい水引細工で飾り付けをします。



いずれも
津田水引折型 P44

加賀毛針



「コサージュ」

金沢・クラフト広坂 P44
加賀毛針の伝統の技術を
応用したフェザーアクセサ
リー。個性的なデザインが
若い女性に人気があります。



「鮎用 加賀毛針」

目細八郎兵衛商店 P44
漁の時期や気候などに
より使い分けるといふ、華
やかな羽毛を身にまとった
加賀毛針。

加賀毛針とその歴史

加賀藩時代(1583～1868年)、武士の足腰の鍛錬
にと鮎釣りが盛んに行われました。当時は武士
が鮎毛針を作っていました。その後、庶民も鮎釣りを
するようになりましたが、国内で鮎を毛針で釣って
いたのはこの地方だけでした。1890年に内国勸業博覧
会に出品されたのをきっかけに、一躍有名になりまし
た。加賀毛針の特徴は針先の返しをなくしていること
や、川虫に似せてキジやヤマドリの羽毛や金箔など
を使った美しさなど、用と美を兼ね備えていることです。

二俣和紙

二俣和紙とその歴史

1 592～1596年にかけて、金沢市二俣地区では、加
賀藩の庇護を受けて献上紙漉き場として加賀奉
書などの高級な公用紙が漉かれてきました。和紙の原料
となるコウゾ、ミツマタなどを採取し、樹皮を加工する
ところから始まる手作りの一貫生産です。
強靱な保存性が特徴の二俣和紙。箔打紙として利用さ
れ、現在も書家に好まれる奉書紙のほか、和染紙、卒業証
書などに用いられています。葉書やレターセットなども
好評です。



「二俣和紙はがき」

金沢・クラフト広坂 P44
温かさを感じる漉き絵はがき。
やさしい色合いの模様がかわいい。

加賀手まり

加賀手まりとその歴史

加賀手まりは、江戸幕府が日本を治めた江戸時代(1603～1867年)、将軍・徳川家康の孫で、3歳で前田家に興入れした珠姫(たまひめ)が持参してきた手まりがルーツといわれます。金沢では今でも、娘が嫁ぐ際に魔除けとして持たせる風習が残っています。糸を巻いて固めて土台の球を作り、色鮮やかな五彩の糸を操り、巧妙な幾何学模様を描きます。最近では海外へのみやげとしても人気です。



④
「加賀ゆびめき」
金沢・クラフト広坂
P44
加賀手まりの技術
を応用して作られ
ており、これもまた
カラフルで可愛らし
く人気があります。

加賀花手まりの会

金沢・クラフト広坂 P44

「① 菟目 ② 鈴割」

ききょう

③ 桔梗 ④ 重ね梅

見た人が手にとってみたくなる、遊んでみたくなる、そんな身近に置きたい手まりです。



自分でつくってみよう! 伝統工芸の制作体験

金沢の伝統工芸は、江戸時代から受け継がれてきた丁寧な手仕事です。初心者や家族でも気軽に体験できるプランも用意されているので、ぜひ金沢に訪れてチャレンジしてみましょう。

金箔箔

KANAZAWAHAKU



金箔は主に仏壇や武具、調度品など、洗練された豪華な加飾に使用されてきました。最近ではその用途を広げ、手鏡や小箱、USBメモリーの装飾のほか、金箔を使った美容液など、目的や販路も拡大しています。金沢市内6店舗では、箔貼り体験や箔移し体験を実施していますので金箔にふれるよい機会となっています。所要時間は30分～60分程度。

金箔箔 体験できる店舗

マップP45,46 参照

今井金箔

☎ 076-223-8989
住 金沢市幸町7-3
時 10:00～17:00 (体験は10:30～、13:00～、15:00～)
料 梅皿1,000円～、マイバッグ1,250円～ほか
休 月、金曜、年末年始 P 15台
交 JR金沢駅から北鉄バス花里経由東部車庫行きで約15分、思案橋下車、徒歩約1分

所要時間

30分～

要予約

金箔貼り体験 かなざわカタン

☎ 076-231-1566
住 金沢市下新町6-33
時 9:00～17:00
料 銘々皿900円～、小箱1,100円～ほか
休 無休 (年末年始は休業) P 5台
交 JR金沢駅から北鉄バスまたは西日本ジェイアールバス橋場町方面行きで約6分、尾張町下車、徒歩約2分

所要時間

約60分

要予約

金銀箔工芸さくた・本店

☎ 076-251-6777
住 金沢市東山1-3-27
時 9:00～18:00 (体験は9:00～、10:30～、13:00～、15:00～)
料 箸一膳600円～、小箱1,300円～ほか
休 無休 P 12台
交 JR金沢駅から西日本ジェイアールバス鳴和方面行きで約10分、東山下車、徒歩約2分

所要時間

約60分

要予約

金箔工芸田じま

☎ 076-201-8486
住 金沢市武蔵町11-1 プラサードムサシ2F
時 10:00～16:00
料 1,200円～
休 火曜 (祝日を除く、夏季、冬季休業あり) P なし
交 JR金沢駅から北鉄バスまたは西日本ジェイアールバス橋場町方面行きで約4分、武蔵ヶ辻下車、徒歩約2分

所要時間

45分～

要予約

かなざわ美かざりあさの (箔一)

☎ 076-251-8911
住 金沢市東山1-8-3
時 9:00～18:00 (体験は10:00～16:00)
料 絵はがき500円～、梅皿1,000円～ほか
休 火曜 (祝日の場合営業) P なし
交 JR金沢駅から北鉄バスまたは西日本ジェイアールバス橋場町方面行きで約8分、橋場町下車、徒歩約4分

所要時間

20分～

要予約

箔座稽古処

☎ 076-252-3641 住 金沢市東山1-13-18 (箔座ひかり蔵内)
時 10:00～17:00 (体験は10:00～、13:30～、14:30～)
料 カード600円～、箸972円～ほか
休 火、水曜 P なし
交 JR金沢駅から北鉄バスまたは西日本ジェイアールバス橋場町方面行きで約8分、橋場町下車、徒歩約4分

所要時間

15分～

要予約

加賀友禅

KAGAYUZEN



金沢の四季の風景や草花などの自然を見事に描いた加賀友禅。訪問着や留袖などの着物のほか、風呂敷やバッグ、扇子、財布、友禅ハンカチなど、求めやすい価格の和装小物などがあります。制作には数々の工程がありますが、体験では簡単にできる手描き染めや型染めができます。また、加賀友禅や街着着用物の着用体験も受け付けています。

加賀友禅

体験できる店舗

マップ P45,46 参照

●かがゆうぜんかいかん
加賀友禅会館
☎ 076-224-5511 住 金沢市小將町8-8
時 9:00～17:00
料 手描き友禅体験（ハンカチ）2,750円～（団体のみ要予約）、型染体験1,650円～（団体のみ要予約）ほか
休 水曜（祝日を除く）、年末年始 P なし
交 JR金沢駅から城下まち金沢周遊バスで約18分、兼六園下車、徒歩約2分

所要時間
20分～
要予約

●ながまちゆうぜんかん
長町友禅館
☎ 076-264-2811 住 金沢市長町 2-6-16
時 9:30～17:00
料 彩色体験は14:30まで、着付体験は16:00まで受付
（彩色体験は14:30まで、着付体験は16:00まで受付）
料 彩色体験（ミニ額）4,000円～、着装体験 3,000円～、
街着着物貸出 4,000円～
休 火、水曜、冬季（12～2月） P 3台
交 JR 金沢駅から北鉄バス香林坊方面行きで約8分、
香林坊下車、徒歩約10分

所要時間
60分～
要予約

金沢漆器

KANAZAWASHIKKI



江戸時代から大名好みの品位をもった高級漆器として制作されてきた金沢漆器。加賀蒔絵とよばれる繊細で緻密な加飾が特徴で、主に茶道具や調度品などを制作。優美で力強く、まさに加賀藩を象徴するかのような独特の漆工芸品です。体験は、あらかじめ上塗を終えた漆器に豪華な蒔絵を施すもので、金・銀・朱などの粉を蒔いて仕上げます。

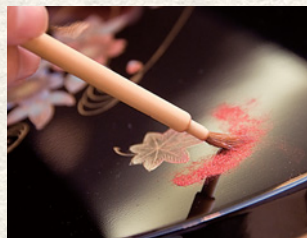
金沢漆器

体験できる店舗

マップ P45 参照

●のびく
能作
☎ 076-263-8121 住 金沢市広坂1-1-60
時 10:00～19:00（体験は10:30～、13:30～）
料 盆3,240円～
休 水曜（祝日の場合は営業、8月は無休、年末年始は休業） P 2台
交 JR金沢駅から北鉄バス香林坊方面行きで約8分、
香林坊下車、徒歩約5分
※体験では代用漆を使用しています。かぶれることはありません。

所要時間
60分～
要予約



加賀繻

KAGANUI



金糸や銀糸のほか色とりどりの絹糸をあやつり、絵画のように描いていく刺繻。金沢では江戸時代に武士や姫たちの着物や帯に施され、華やかで雅な加賀繻として受け継がれてきました。今ではフォーマルなドレスやバッグ、アクセサリ、魔除けや御守りとなる小物も人気をよんでいます。体験はストラップなどの小物が主体となります。

加賀繻

体験できる店舗

マップ P45,46 参照

※下記店舗への来店は必ず事前にお問い合わせ下さい

●かがめい いまい
加賀繻 IMAI
☎ 076-231-7595 住 金沢市三口新町 3-4-19
時 10:00～17:00
（体験受付は15:00まで）
料 アクセサリー、帯留めなど2,500円～
休 不定休（年末年始は休業） P 3台
交 JR 金沢駅から北鉄バス花里経由東部車庫行きで
約25分、赤坂下車、徒歩約3分
※滞在型特別プログラムもあります。（実働10時間～16時間）

所要時間
120分～
要予約

●かがめい
加賀繻 くらしこ
☎ 076-256-3210
住 金沢市東力町イ18番地パークレジデンス 201
時 9:30～17:00（体験受付は9:30～13:00まで）
料 マグネット、ヘアゴムなど2,160円～
休 土、日曜、祝日 P 3台
交 JR 金沢駅から北鉄バス打木または済生会病院行きで
約15分、新神田下車、徒歩約8分

所要時間
60分～
要予約

●かがめい うげぼう つばき
加賀繻工房 椿
☎ 076-272-8334
住 金沢市山科 3-4-22
時 10:00～16:00（体験受付は10:00～16:00まで）

所要時間
120分～
要予約

料 ミニ額、ヘアゴム2,500円～
休 土、日曜、祝日 P 1台
交 JR 金沢駅から北鉄バス光が丘住宅・額住宅行きで
約30分、円光寺下車、徒歩約5分

加賀毛針

KAGAKEBARI



針を釣る道具、擬餌針として作られてきた加賀毛針。その美しさやアート性から、現代ではブローチやピアス、チョーカー、髪飾りなどのモダンなアクセサリが評判になっています。体験では、数十種類もあるカラフルな羽毛から自分好みを選び、組み合わせてブローチをつくります。丁寧な指導があるので、初心者も大満足の体験です。

加賀毛針

体験できる店舗

マップ P45 参照

●めばそはちろべししょうてん
目細八郎兵衛商店
☎ 076-231-6371 住 金沢市安江町 11-35
時 9:30～17:30（体験受付は9:30～15:00）
料 ブローチ 2,000円～
休 火曜（祝日の場合は営業、年末年始は休業） P 4台
交 JR 金沢駅から徒歩約6分

所要時間
約90分
要予約



加賀水引

KAGAMIZUHIKI



古くから結納飾りや金封などに施されてきた加賀水引。和紙をこよりにした水引は、金や銀、赤、白など多彩な色があります。津田水引折型は、それまで平面的だった水引細工を立体的に仕上げた創作水引が特徴で、全国にその名が知られ加賀水引の位置づけがされました。津田水引折型では、加賀水引の体験ができます。



加賀水引 体験できる店舗
※月～金の平日のみ受付。最小4名～12名まで。1週間以上前の予約が必要です。
マップP45 参照

●つだみずひきりかた
津田水引折型
所要時間 60分～
☎ 076-214-6363 住 金沢市野町 1-1-36
時 10:00～15:00
料 ストラップ 1,080 円～、ネックレス 2,700 円～
休 土・日曜、祝日（年末年始は休業）P 3 台
交 JR 金沢駅から北鉄バス有松または平和町方面行きで約 10 分、片町下車、徒歩約 5 分

金沢九谷

KANAZAWAKUTANI

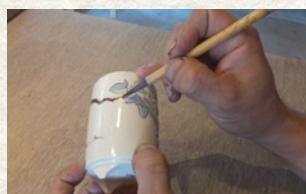


九谷焼は、江戸時代初期に大聖寺の九谷村で始まったと伝えられています。呉須(ごす)と呼ばれる藍青色で線描きし、赤、黄、緑、紫、紺青の五彩と呼ばれる5色の絵具で、花鳥、山水などの絵柄を大胆な構図で描いたものです。古九谷に始まり木米、吉田屋、庄三、永楽など数々の作風が生まれました。陶庵では電動ろくろ体験等ができます。



金沢九谷 体験できる店舗
マップP45 参照

●とうあん
陶庵
所要時間 60分～
☎ 076-291-2533 住 金沢市入江 2-401
時 10:30～18:00
(体験教室 14:00～17:00、19:00～21:00)
料 電動ろくろ体験 3,500 円～、手びねり体験 2,500 円～ほか
休 木曜
交 JR 金沢駅から北鉄バス上安原方面行きで約 20 分、入江下車、徒歩約 5 分



金沢伝統工芸ショップガイド

加賀友禅

協同組合加賀染振興協会
加賀友禅会館
☎ 076-224-5511 / 水曜休(祝日を除く)、年末年始
E-mail center@kagayuzen.or.jp

1 加賀友禅会館

〒920-0932 金沢市小將町 8-8
☎ 076-224-5511
E-mail center@kagayuzen.or.jp
9時～17時 / 水曜休(祝日を除く)、年末年始
www.kagayuzen.or.jp/

体験
できます



2 長町友禅館

〒920-0865 金沢市長町 2-6-16
☎ 076-264-2811
E-mail mail@kagayuzen-club.co.jp
9時30分～17時 / 火曜・水曜・冬期(12～2月)休
www.kagayuzen-club.co.jp/

体験
できます



3 加賀友禅 毎田染画工芸

〒920-0964 金沢市本多町 3-9-19
☎ 076-221-3365
E-mail info@maida-yuzen.com
10時～17時 / 不定休
www.maida-yuzen.com



金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合
金沢商工会議所内
☎ 076-263-1157 (土・日・祝休)

4 (株) 石田漆器店

〒920-0981 金沢市片町 1-7-21
☎ 076-261-2364
E-mail ishida@e-katamachi.com
10時～19時 / 水曜休



5 (株) 能作

〒920-0962 金沢市広坂 1-1-60
☎ 076-263-8121
E-mail nosaku@kanazawa.gr.jp
10時～19時 / 水曜休(8月は不定休)
www.kanazawa.gr.jp/nosaku/

体験
できます



6 (株) 和幸

〒921-8031 金沢市野町 1-2-7
☎ 076-247-4455
E-mail wakou@nsknet.or.jp
10時～17時 / 水曜休
kanazawa-wakou.jp



金沢九谷

金沢九谷振興協同組合
片岡光山堂内
☎ 076-221-1291
4～11月 9時～18時/無休
12～3月 9時～17時/水曜休
E-mail kouzandou@po4.nsk.ne.jp

7 大樋焼 松雲窯

〒920-0996 金沢市油車 38-1
☎ 076-221-2904
E-mail showingama-38@arrow.ocn.ne.jp
9時～18時 / 年中無休



8 片岡光山堂

〒920-0936 金沢市兼六町 2-1
☎ 076-221-1291
E-mail kouzandou@po4.nsk.ne.jp
4～11月 9時～18時
12～3月 9時～17時 / 水曜休
www.kataoka-kouzandou.co.jp/



9 九谷焼 鑄木商舗

(金沢九谷ミュージアム併設)
〒920-0865 金沢市長町 1-3-16
☎ 076-221-6666
E-mail kanazawa@kaboraki.jp
9時～18時 / 不定休
kaboraki.jp/



10 九谷巴商会

〒920-0936 金沢市兼六町 2-13
☎ 076-231-0747
E-mail kutanitomoe@gmail.com
10時～18時 / 火曜休



11 九谷焼 諸江屋

〒920-0981 金沢市片町 1-3-22
☎ 076-263-7331
E-mail kutani@moroeiya.com
9時～19時 / 水曜休
www.moroeiya.com/



12 黒龍堂

〒920-0853 金沢市本町 1-5-3 リファール 1F
☎ 076-221-2039
E-mail kutani@kokuryudo.com
9時～18時 / 火曜・金曜休(祝日を除く)
www.kokuryudo.com/



13 陶庵

〒921-8011 金沢市入江 2-401
☎ 076-291-2533
E-mail info@to-an.jp
10時30分～18時 / 不定休
to-an.jp



14 北山堂

〒920-0962 金沢市広坂 1-2-33
☎ 076-231-5288
E-mail office@hokusando.co.jp
9時30分～18時 / 月曜休
www.hokusando.co.jp/



金 沢 箔

石川県箔商工業協同組合

☎ 076-257-5572 (土・日・祝・年末年始休)

13 (株) 今井金箔

〒920-0968 金沢市幸町 7-3

☎ 076-223-8989

E-mail shop@kinpaku.co.jp

10時～17時 / 月曜・金曜休

www.kinpaku.co.jp/

16 金箔貼り体験 かなざわカタニ

〒920-0910 金沢市新町 6-33

☎ 076-231-1566

E-mail officedotcom@katani.co.jp

9時～17時 / 無休(12月30日～1月3日休)

www.k-katani.com/

17 (株) 金銀箔工芸さくだ・本店

〒920-0831 金沢市東山 1-3-27

☎ 076-251-6777

E-mail kinpakuya@goldleaf-sakuda.jp

9時～18時 / 年中無休

www.goldleaf-sakuda.jp/

金箔屋さくだ

〒920-0831 金沢市東山 1-3-40

☎ 076-251-8955

10時～17時 / 木曜

18 金箔工芸 田じま

〒920-0855 金沢市武蔵町 11-1 プラサードサン2F

☎ 076-201-8486

E-mail info@tajima-kinpaku.co.jp

10時～16時 / 火曜休(祝日の場合を除く)夏季・冬季休あり

www.tajima-kinpaku.com/

19 (株) 箔一本店 箔巧館

〒921-8061 金沢市森戸 2-1-1

☎ 076-240-8911

E-mail contact@hakuichi.co.jp

9時～18時(体験受付は9時～16時)

年中無休(1月1日は休館)

kanazawa.hakuichi.co.jp/

かなざわ 美かざりあさの

〒920-0831 金沢市東山 1-8-3

☎ 076-251-8911

9時～18時(体験受付は10時～16時) / 火曜休(祝日の場合営業・1月1日は休業)

20 箔座ひかり蔵

〒920-0831 金沢市東山 1-13-18

☎ 076-251-8930

E-mail hikarigura@hakuza.co.jp

9時30分～18時(冬季17時30分まで) / 年中無休

www.hakuza.co.jp/

箔座稽古処

〒920-0831 金沢市東山 1-13-18 (箔座ひかり蔵内)

☎ 076-252-3641

10時～16時30分(体験は10時～、13時30分～、14時30分～) / 火曜・水曜休

加 賀 箔

石川県加賀刺繍協同組合

〒920-8203 金沢市鞍月2-20

地場産業振興センター新館2階

☎ 076-268-8115(土・日・祝休)

E-mail k-nishimura@ita.or.jp

www.kaganui.or.jp/

※右記21～23の店舗への来店は必ず事前にお問い合わせ下さい。

21 加賀繻 IMAI

〒920-0944 金沢市三口新町 3-4-19

☎ 076-231-7595

E-mail yokomitsu7788@yahoo.co.jp

10時～17時 / 不定休

www.imai1912.com/

22 加賀繻 くらして

〒921-8016 金沢市東力町イ18 番地

パークレジデンス 201

☎ 076-256-3210

E-mail kaganui.classico@email.plala.or.jp

9時30分～17時 / 土・日・祝休

23 加賀繻工房 椿

〒921-8175 金沢市山科 3-4-22

☎ 076-272-8334

10時～16時 / 土・日・祝休

24 繻の彩り

〒921-8101 金沢市法島町 8-33

☎ 076-243-2439

25 宮越仁美 繻工房

〒921-8034 金沢市泉野町 1-12-12

☎ 076-243-2992

E-mail hitomi_m428@yahoo.co.jp

不定休

www.kaganui.or.jp/atelier/atelier01.html

金 沢 仏 壇

金沢仏壇商工業協同組合

〒920-0935 金沢市石引4-2-9

☎ 076-223-4914

E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp

9時～17時 / 土・日・祝休

kanazawa-butsudan.or.jp/

26 (株) 池田大佛堂

〒920-0854 金沢市安江町 5-7

☎ 076-222-5550

9時～18時 / 火曜・年始(1月1日～1月3日)

www.ikedadaibutudo.com/

27 今村佛壇店

〒921-8055 金沢市西金沢新町 178-1

☎ 076-249-1366

9時～17時 / 水曜休

28 (株) 澤田仏壇店

〒920-0854 金沢市安江町 3-15

☎ 076-221-2212

9時30分～17時 / 火曜休

29 (有) 匠楽 大竹仏壇製作所

〒921-8046 金沢市大桑町 2-121

☎ 076-244-4069

E-mail bigbamboo@hotmail.co.jp

10時～20時 / 年始休(1月1日～1月3日)

ootakebutsudan.com

30 ◎塗師岡仏壇店

〒920-0843 金沢市森山 2-1-29

☎ 076-253-2201

E-mail nushiokakenjibutudan@gmail.com

8時30分～17時30分 / 水曜休

31 ◎塗師岡仏壇店

〒921-8031 金沢市野町 1-2-36

☎ 076-241-0795

E-mail nushi@heleen.ocn.ne.jp

10時～19時 / 日・祝休

www.m-nushioka.jp

32 はやし仏壇店

〒921-8033 金沢市寺町 5-5-17

☎ 076-241-8690

10時～18時 / 日・祝休

33 (有) 山田仏具店

〒920-0854 金沢市安江町 13-32

☎ 076-221-2306

E-mail info@yamadabutsuguten.co.jp

9時～17時 / 火曜休

yamadabutsuguten.co.jp/

34 (株) 米永仏壇

〒920-0058 金沢市野中町 1-10

☎ 076-221-1930

9時～18時30分 / 水曜休

www.yonenaga-butsudan.com

希 少 伝 統 工 芸

35 金属工藝 加澤美照工房

〒920-0845 金沢市瓢箪町 8-33

☎ 076-261-3919

E-mail bisho-k@amber.plala.or.jp

10時～17時 / 日・祝休

bisho-koubou.com/

36 金沢桐工芸 岩本清商店

〒920-0845 金沢市瓢箪町 3-2

☎ 076-231-5421

E-mail info@kirikougei.com

10時～18時30分 / 火曜休

www.kirikougei.com/

37 千と世水引

☎ 076-236-2269

E-mail info@chitosemizuhiki.com

10時～17時 / 不定休

www.chitosemizuhiki.com/

38 (有) 津田水引折型

〒921-8031 金沢市野町 1-1-36

☎ 076-214-6363

E-mail info@mizuhiki.jp

10時～18時(土曜は12時まで) / 日・祝休(年末年始は休業)

www.mizuhiki.jp/

39 目細八郎兵衛商店

〒920-0854 金沢市安江町 11-35

☎ 076-231-6371

E-mail webmaster@meboso.co.jp

9時30分～17時30分 / 火曜休(祝日の場合は営業・年末年始は休業)

www.meboso.co.jp/

40 大樋長左衛門窯・大樋美術館

〒920-0911 金沢市橋場町 2-17

☎ 076-221-2397

E-mail info@ohimuseum.com

9時～17時 / 無休

www.ohimuseum.com/

そ の 他

41 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂 1-2-25

☎ 076-220-2790

10～18時 / 月曜休(祝日の場合翌日休)

年末年始(12月29日～1月1日)休

www.kanazawa-noh-museum.gr.jp/

42 金沢市立安江金箔工芸館

〒920-0831 金沢市東山 1-3-10

☎ 076-251-8950

9時30分～17時 / 火曜休(祝日の場合翌日休)

年末年始(12月29日～1月3日) 展示替期間休

www.kanazawa.museum.jp/kinpaku/

43 金 沢 ・ ク ラ フ ト 広 坂



〒920-0962 金沢市広坂 1-2-25 金沢能楽美術館内

☎ 076-265-3320

E-mail info@crafts-hirosaka.jp

10時～18時 / 月曜休(祝日の場合翌日休)

年末年始(12月30日～1月2日)休

www.crafts-hirosaka.jp/

金沢の希少伝統工芸品を展示販売。普段使いができるアクセサリーやストラップなど小物が主体なので、気軽に楽しんで買うことができる。

* 記載の内容は2023年4月現在のものであり、変更になる場合があります。

